

2006年11月8日

JGN2 臨時利用報告書（イベント-182）

内容：

2006年11月1日～3日に札幌コンベンションセンター開催された第26回日本医療情報学連合大会における「国際遠隔医療」シンポジウムで、九州大学の国際遠隔医療ネットワークのデモンストレーションを行った。

<http://jemi2006.med.hokudai.ac.jp/>

発表名：「11月2日 10:00-12:00: S9-6 アジア太平洋地域におけるブロードバンド国際遠隔医療ネットワークの展開 中島 直樹（九州大学病院 医療情報部）」

今回は、九州大学病院内視鏡室において実際の患者に同意書を取得の上協力したいただき、日本で発達してきた「内視鏡的粘膜下切除術」という先進的医療技術の開始前から終了後までの全体をデモに用いた。①九州大学病院から、②札幌会場、③上海交通大学附属病院、④韓国国立がんセンター（ソウル地区）の4ステーションを JGN2 やその他の国際回線で結んでVPNでセキュリティを確保しつつ高品質動画像を送り、各ステーション同士の質問やディスカッションを行った。

特に札幌会場では、日本国内の遠隔医療専門家が一堂に会し、デモを大型スクリーンで体験し、ディスカッションに参加した。国際遠隔医療の経験がある専門家は少ないが、眼科領域での吉田晃敏教授（旭川医大）やヘルスケア領域の村瀬澄夫教授（信州大学）、日本医療情報学会遠隔医療分会長の本多正幸教授（長崎大学）らをはじめ、多くの研究者、企業関係者の姿が見られた。



図1. 日本医療情報学連合大会会場（札幌）。メインスクリーンとサブスクリーンの2スク

リーンを用いた。



図2. 札幌会場の参加者。

入念な通信テストやリハーサルを行ったこともあり、札幌会場をはじめとして、各地区のネットワーク状況はきわめて良好でほとんどパケットロスも無く、音声も高い質を保った。



図3. モニター画面。DV4を用いて、4ステーション映像を一画面に表示している。

本イベントは NORTH および HOTnet に札幌会場の接続やテストなどで多大なご協力をいただいた。

なお本イベントは、九州大学が行う国際遠隔医療ネットワーク活動の第 80 回目のイベントに当たる。

<http://www.aqua.med.kyushu-u.ac.jp/>

参加者数：

- ① 九州大学病院：5 人
- ② 札幌会場：40 人
- ③ 上海会場：30 人
- ④ ソウル会場：5 人

参加者のコメント

九州大学病院：

非常に良いネットワークコンディションで行えたので、手技を行う側でもストレスが少なかった。

札幌会場：

画質が良いので驚いた。こういうことが簡便に行える時代になったのかと感慨深い。もっと人を集めても良かった。

上海会場：

参加することが出来て良かった。勉強になった。

ソウル会場：

このような国際的な取り組みは今後の医療者には欠かすことが出来ない重要なものである。そのために自分たちも努力を惜しまない。

(文責：中島直樹 九州大学病院医療情報部)